

一般社団法人 **全国高等学校PTA連合会** **会報**
 No.76
 一般社団法人全国高等学校PTA連合会
 (連絡先) 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1 (奥田ビル) TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 相川順子 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org

人を育む 思い一つに
相川順子会長3期目 25年度スタート



全国高等学校PTA連合会(全国高P連)の平成25年度がスタートした。6月22日に東京ガーデンパレスで開かれた総会で相川順子会長が再任され、3期目を担うとともに、新たな役員および委員会構成も決まった。一般社団法人2年目となる今年度、執行部は全国の会員の協力を得ながら、さらなる会の充実を図り、全国の高校生への支援に取り組んでいく。

既に相川会長は、これまでの経験を踏まえ、積極的に高校生の学習や生活環境を整えるための活動に乗り出している。6月には文部科学省を訪れ、「高校生の授業料無償化継続を求め」要望書を提出した。

さらに、山口の全国大会開催を前に、下村博文文部科学大臣と意見交換を行った。授業料無償化の継続と高校生の健全育成、子育て支援のための施策などについて意見を交わした。下村大臣は、政府が積極的に教育再生に取り組む姿勢であることを示した上で、全国高P連の活動の重要性に理解を示した。全国高P連は今年度も文科省はじめ関係機関と積極的に連携を図り活動を展開していく。

今号の主な内容



▲輝く高校生

- 会長就任挨拶 2頁
- 平成25年度総会報告 2頁
- 各委員会報告 3頁
- シリーズ青春白書 全国からの便り (福島県立小高工業高校・香川県立琴平高等学校) 4～5頁



▲授業料無償化継続要望書提出(6/17)

- 地区大会報告 6～10頁
 北海道地区・東北地区・関東地区・北信越地区・東京地区
 東海地区・近畿地区・中四国地区・九州地区
- シリーズ視点 世界に羽ばたけ!輝く高校生!「将来はプロの道へ」 10～11頁
- 平成25年度役員・委員名簿 12頁

会長あいさつ

保護者が集い、学び、大きな輪を

6月22日に開催された平成25年度の総会において、会長の再任を受け3期目をスタートする事になりました。

全国高P連は、これまで高校生健全育成に

係る活動を柱に、各種事業を行ってまいりましたが、社会の状況は予想以上のスピードで情報化が進み、グローバル化が叫ばれ、様々な問題が見えてきました。高校生が抱える課題は、私たち保護者の抱える課題でもあります。高校生が多様化した現在を生き抜く力を身につけて行くために、私たちは最大限の支援をしていかなければならないと思います。そのため私たちは、たくさんの情報の中から、まず保護者が正しい情



25年度新役員

報を得ること。そして会員同士が共有し、学校を支援していくことが高校生への支援につながっていくこととなります。

震災を機に地域の絆や、人と人の絆の大切さを痛感しております。「学校、家庭、地域の連携」と叫ばれてきました。地域の中に学校があり、また家庭があります。そして行政も地域の中に存在しています。その地域社会の中で高校生を育てるためにも、保護者が集い学び、大きな輪を作り、学校を支援していかなくてはならないと思えます。全国高P連では、今後とも高校生の課題に真正面から取り組み、皆様のご協力によって更に充実した活動をしていきたいと思っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

抱える課題は、私たち保護者の抱える課題でもあります。高校生が多様化した現在を生き抜く力を身につけて行くために、私たちは最大限の支援をしていかなければならないと思えます。そのため私たちは、たくさんの情報の中から、まず保護者が正しい情

報を得ること。そして会員同士が共有し、学校を支援していくことが高校生への支援につながっていくこととなります。

平成二十五年度

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

定時総会報告

6月22日、東京お茶の水にある東京ガーデンパレスにおいて、平成25年度定時総会が開かれた。来賓として文部科学省生涯学習政策局社会教育課長坪田知広氏、総務省総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課長玉田康人氏、日本PTA全国協議会会長武田岳彦氏をお迎えした。

総会では、相川順子会長の挨拶、来賓の挨拶のあと、議長に三浦啓亨副会長を選出し、議事に入った。

1号議案・24年度事業報告、2号議案・24年度収支決算・東日本大震災に係る義援金の収支計算書、監査結果について事務局・各委員長・代表理事による報告があり、両議案は全会一致で承認された。

3号議案・平成25年度役員選任では、地区別理事9名、理事会推薦による理事5名、全国校長協

会推薦理事1名、合計15名の理事が選出され、監事は任期二年のため、3名全員が留任となった。この後、30分の休憩に入った。

この間に新役員による理事会が開催され、新執行部の人選が行われた。再開後の4号議案で相川会長が再任されたほか、副会長・専務理事・常務理事が選出された。さらに各委員会の委員長、委員の委嘱が行われた。また、顧問・相談役の委嘱も行われた。(12ページ参照) 以上の4議案が滞

りなく議了したのち報告事項に移った。24年度和歌山大会の決算報告、25年度事業計画及び収支予算報告、相川会長の就任挨拶、山口大会の準備状況、千葉県に対する第66回開催依頼、退任役員挨拶が行われた。最後に東日本大震災の被災地、岩手・宮城・福島県に対する義援金(第5次分)の贈呈が行われ、3県の代表として岩手県連会長内館茂氏より謝辞が述べられた。以上をもって総会は幕を閉じた。(事務局)

東日本大震災以後、今なお被災地の復旧・復興が長期にわたる見通しであることから、今後も被災された子どもたちへの支援が必要であると考え、義援金を募る活動を継続いたします。今後とも全国高P連の趣意にご賛同を賜り、引き続き義援金活動にご協力くださいますようお願いいたします。

義援金受付の継続

義援金受付の継続

東日本大震災以後、今なお被災地の復旧・復興が長期にわたる見通しであることから、今後も被災された子どもたちへの支援が必要であると考え、義援金を募る活動を継続いたします。今後とも全国高P連の趣意にご賛同を賜り、引き続き義援金活動にご協力くださいますようお願いいたします。



300万円を義援金として

東日本大震災以後、今なお被災地の復旧・復興が長期にわたる見通しであることから、今後も被災された子どもたちへの支援が必要であると考え、義援金を募る活動を継続いたします。今後とも全国高P連の趣意にご賛同を賜り、引き続き義援金活動にご協力くださいますようお願いいたします。

各委員会報告

健全育成委員会

委員長 外城戸昭一

第1回健全育成委員会では、今年度も子どもの健全な成長を願う観点から協議を行い、今年度取り組むテーマとして、次の三点を確認しました。

①アンケート調査について

昨年度は実施されませんでした。今年度は協力者委員会での協議を踏まえ、「高校生の実態調査」を行うことになりました。対象は各地区から5校、高校2年生7,200人を抽出。十月頃に実施することになっています。

②薬物乱用防止パンフレットについて

今年度も『薬物乱用防止パンフレット』を発行することとした。

また、各県連等に送付した薬物乱用防止の横断幕についても大会等で掲示し、多くの会員へ周知を図るようお願いしました。

③自転車・バイク・歩行者のマナーアップ運動

「バイク3ない運動」を、昨年に引き続き実施することを確認しました。

進路対策委員会

委員長 鈴木 敏彦

①就職促進に関する関係諸機関への働きかけについて

「新規卒業予定者の雇用促進について」の文案作成は、今年度は1回とし提出月は10月をめどに内容は委員長に一任する。厚生労働大臣、文部科学大臣に要望書(お願い)を提出することと決定。

②「緊急雇用創出基金事業の継続について(お願い)」は昨年同様で、理事会に諮ることと決定した。

③第6回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」(リクルート)との共同調査)についてアンケートの内容は、毎回同じ質問で、統計を取ったテーマを毎回変えて、委員会を決める。

実施方法と対象校選定専門学校の振り分けを各委員で話し合い、専門高校は

★総合(2校) 北海道、香川★農業(1校) 神奈川県★工業(3校) 東京、富山、静岡★商業(3校) 岩手、滋賀、佐賀に振り分けられた。

普通科は全国9ブロックで各2校(計18校) 選定することとした。

スケジュールとしては、

実施 10月

分析 11-12月

広報 2-8月(26年度全国大会で発表予定)

調査広報委員会

委員長 関根 英樹

第1回委員会①平成24年度引き継ぎ事項②会報76号企画案③ホームページの変更④年間スケジュールの確認⑤全国大会における広報誌展示内容、について協議しました。

①総会資料の前年度反省点を踏まえ、より内容を精査し、手にとつて読んでもらえる会報を目指します。25年度にホームページをリニューアルする。

②「世界に羽ばたけ、輝く高校生」は沖縄県が担当する。青春白書は引き続き続けるが、学校紹介に終わらないよう周知徹底する。

③ホームページのリニューアルは事務局、執行部、調査広報委員会が進め、早急に変更する。

④会報77号、78号の発行スケジュールと、9月の京都における委員会の開催日程、および内容について確認した。

⑤全国大会の広報紙展示は、大会開催県連に展示業務を一任する。

以上の協議を元に委員が一丸となって、今年度事業に取り組んでいきますので、ご協力よろしくお願ひします。

研修委員会

委員長 坂井 正人

6月23日に第1回委員会を開催しました。

一、平成24年度の引継ぎ事項について

(1)金井専務理事から説明受け確認

二、平成25年度山口大会について

(1)山口大会実行委員長から進捗状況について確認

(2)山口大会での研修委員の担当割振りと仕事内容の確認

三、平成26年度福井大会の準備状況について

(1)福井大会実行委員会より説明

四、全国大会ガイドラインの項目・内容について

五、委員会年間スケジュールについて

全国大会での報告レポートについては統一フォーマットを思案中です。また、円滑な委員会運営にはメンバー同志の良いコミュニケーションが不可欠であるとの意見もあり、山口の全国大会・京都での委員会で交流を深めていく予定です。一年間よろしくお願ひいたします。

楽しい、元気がでる！そして、ためになる。

高校生新聞



高校生スポーツ



勉強、部活、行事と忙しい学校生活。進路や友人関係など悩みもあることでしょう。高校生新聞・高校生スポーツはそんな高校生を応援する新聞です。毎号読めば、やる気アップ、毎日が充実すること間違いなし！高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。

▼ホームページでも高校生のニュースを発信!

高校生新聞

検索



SP 誌スクールパートナーズ
高校生新聞社
http://www.koukouseishinbun.jp/

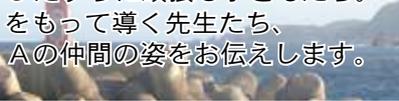
編集部 TEL.042-725-1155
FAX.042-724-2710
henshu@scjpa.jp

本社:〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10
西日本支社:〒552-0013 大阪府大阪市港区福崎3-1-148
北海道支社:〒060-0004 北海道札幌市中央区北四条西5-1

●1993年10月創刊 ●全国約4,430校の生徒が愛読2013年4月号)
●タブロイド判/オールカラー/平均24頁 ●毎月10日発行

らの便り 「ここにある」vol.19

ひたすらに頑張る子どもたち。
をもって導く先生たち、
Aの仲間の姿をお伝えします。



福島県立小高工業高等学校

「震災・原発事故を乗り越えて」



東日本大震災で一変

東に太平洋を望み、西に阿武隈の山々が広がる自然豊かな吉名の丘に我が校はありました。

それが平成23年3月11日に状況は一変しました。大きな揺れのあと、本校は避難所となり、生徒・教職員はその対応に追われました。その後、東京電力福島第一原子力発電所事故により原発から、約15kmの位置にある本校は、生徒の多くが全国各地へと避難することになりました。

平成23年度は、校舎はもとより原発から20km圏内に立ち入ることもでき



も任命されました。高校生平和大使は、スミス・ジュネーブにある国連欧州本部を訪問し、福島の現状を訴えるとともに、核兵器使用の惨禍の真相を広く国際社会に伝達するため、核兵器の廃絶と平和

ないため、県内5地区にサテライト校が設置されました。さらに翌24年度からは、5つのサテライト校を南相馬市原町区に設置された仮設校舎に集約し、実習棟についても、仮設校舎から約2km離れた倉庫を借り上げ、授業・実習を行っています。

今を伝える生徒達

大震災そして原発事故の経験を、多くの人たちに伝えなければならぬと考えている生徒達がい

① 高校生平和大使

昨年度に引き続き、今年度も本校生一名が高校生平和大使に、同時に外務省より「ユース非核特使」にも任命されま

な世界の実現をめざす高校生一人署名活動を行います。

② 「うつくしま復興大使」

福島民報社主催の「うつくしま復興大使」に、新地町・南相馬市・相馬市の代表として本校生3名が委嘱されました。復興大使は、東日本大震災と原発事故からの復興に向けた決意、支援に対する謝意を伝えることを目的としています。

がんばる生徒達

運動部は、満足なスポーツ施設も整っていない中、県大会・東北大会に出場し、活躍しています。文化部もロボット競技会、ものづくりコンテストや技能検定などにチャレンジし技能習得を目指しています。

特に野球部は、春季県大会第3位で東北大会に出場しました。夏の大会では準決勝で優勝した聖光学院に惜しくも敗れましたが、ベスト4という成績を残しました。練習環境のハンデを感じさせないプレーは、地域の多くの人達に勇気と感動を与えてくれました。

再開されたPTA活動

PTA活動は震災後、規約改正（大震災前のPTA役員は、地区ごとに選出しており、役員選出が事実上不可能となった）を視野に入れながらのスタートでした。

23年度は組織編成できず、対外的活動やPTA新聞の発行等を行いました。

24年度は、校舎が南相馬市に集約されたこともあり、6月に保護者会を行い、PTA役員をクラスから選出するなどの規約改正等を決議し、10月には震災後初の総会を開いて、三役を選出し、PTA活動がようやくスタートしました。

今年度は、4月にPTA総会を開き、震災前のPTA活動に近づけるようにと頑張っています。しかし、課題もあります。まず、体育施設は、市の体育館を借用しているため、休日の利用は難しく、恒例であったPTAレクリエーション大会は実施できませんでした。さらに震災前は、生徒数が約



600人でしたが、現在285名に減少したことから、予算も半減し、今後の活動についても再考が必要な状況です。

全国から多くの支援

今年度の主な活動内容は次のとおりです。PTA視察研修、文化祭への協力、年4回のPTA役員会、朝の挨拶運動です。これまで県内外の高校や各種団体及び組織等からの数多くのご支援をいただきました。この場をお借りして、感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

香川県立琴平高等学校

「地域で学び地域で育つ琴高生」



「青春白書全国か 一輝く姿がこ

未来を見つめ、夢を追い求め、
その子どもたちを熱意
そしてPT

学校概要



本校は「四国のこんぴらさん」のおひざもとにある普通科高校です。地域女子の教育を目的として昭和12年に設立されて以来、地域で活躍する人材を育てるという教育方針は今も変わりません。現在、生徒数は約600名で、卒業生の進路状況は、就職が約2割、大学・短大・専門学校への進学が約8割です。そのため、普通教科のほか、商業、家庭などの専門教科も開設されています。

部活動は、運動部、文化部ともに盛んです。特に、なぎなた部は全国高校総合体育大会で団体戦・個人戦ともに優勝しました。剣道部、山岳部も同大会に出場し、大いに活躍しました。



地域で学び地域で育つ

本校教育の最大の特徴は、地域での教育活動です。「地域で学び地域で育つ」の理念のもと、地元琴平町や近隣のまんのう町において、全校活動、部活動、生徒会活動、自主ボランティアなどさまざまな単位や規模で活動を展開しています。



例えば、授業では、幼稚園や老人福祉施設で実習を行っています。町内一斉清掃をはじめ、夏祭り等への出演、お供物の奉納、ちょうちん清掃、福祉施設での演奏会、町民運動会やチャリティーバザーのお手伝いなど、例をあげればきりがありません。

また、12月に行われる剣道部対なぎなた部の異種武道大会は、地域の方や子どもたちも楽しみにしており、年末の風物詩ともなっています。活動の成果は、年2回発行で町内全世帯配布の「琴高通信」でお知らせしています。町内には卒業生の方も多く、活動の場を提供してくださるとともに、暖かいご声援をいただいています。

こうした活動とおしこころした活動をとおし、地域の一員としての自覚が生まれます。そして、さまざまな方々との交流により、コミュニケーション能力や協調性が培われます。私たちはこのような成長を頼もしく、思っており、子どもたちが心おきな

り等への出演、お供物の奉納、ちょうちん清掃、福祉施設での演奏会、町民運動会やチャリティーバザーのお手伝いなど、例をあげればきりがありません。

また、12月に行われる剣道部対なぎなた部の異種武道大会は、地域の方や子どもたちも楽しみにしており、年末の風物詩ともなっています。活動の成果は、年2回発行で町内全世帯配布の「琴高通信」でお知らせしています。町内には卒業生の方も多く、活動の場を提供してくださるとともに、暖かいご声援をいただいています。

こうした活動とおしこころした活動をとおし、地域の一員としての自覚が生まれます。そして、さまざまな方々との交流により、コミュニケーション能力や協調性が培われます。私たちはこのような成長を頼もしく、思っており、子どもたちが心おきな

被災地との交流活動

部活動や地域活動に励めるよう、PTAとしても全面的にバックアップしています。

地域へ発信してほしいと思います。

琴高祭でのバザー

PTA活動の中で最も楽しみにしているのが、9月の琴高祭で行うPTAバザーです。メニューは、焼きそば、たこ焼き、焼き鳥、フランクフルトなど多種多彩です。前日からの買い出しや下ごしらえ、当日は調理に腕をふるいます。この日は、学生時代に戻った気分が心地よい汗を流し、保護者同士の結びつきを強めています。収益金は、卒業記念植樹に活用されています。

これからいろいろな面で、学校の教育活動や子どもたちの成長のお手伝いができればよいと思います。

北海道地区 釧路・根室大会

価値観の多様化時代、子どもたちの主体性を育む意欲的なPTA活動を



「いじめや暴力に対しては、PTAが全力で子供たちの命を守っていくこと」「各支部や各学校単位でのPTA活動がこれまで以上に活発化し柔軟な対応ができる組織を目指すこと」の2点について述べ、PTA活動の重要性を強調しました。

第63回北海道高等学校PTA連合会大会釧路・根室大会は6月14日（金）・15日（土）の両日、釧路市を会場として、全道13支部の225校・1,022名が一堂に会し開催されました。

大会初日、午前中の総会では各案件の承認と役員改選が行われ、「中島圭会長」をはじめ再任者が大半を占めました。退任される長谷部・大貫両監事には会場から温かい拍手が送られました。午後からの全道大会開会式で、中島圭会長は、

次に、開催支部の鈴木敏夫実行委員長が歓迎の言葉の中で「PTAは子供たちの自己実現を図るプロセスを温かく支える応援団」と述べました。

また、功績者表彰・感謝状贈呈の後、相川順子全国高P連会長が「私達はPTA活動を通して、学校と地域とをつなぐ役割を率先して果たす必要がある」と会員に呼びかけるなど、ご来賓からご挨拶をいただきました。引き続き、道東で希少猛禽類の救護と環境治療に携わる「猛禽類医学研



究所代表・齊藤慶輔氏の講演会「野生動物を守る」が開催されました。物静かで理知的な先生の語り口は野生動物への深い愛情が感じられる素晴らしいご講演でした。翌日、釧路湖陵・釧路工業両校を会場に、35の分科会に分かれ熱心な意見交換をして全日程を終了しました。



東北地区 山形大会

「感謝するところ」〜家族・地域・社会の絆を求めて〜



日に山形市総合スポーツセンターで行いました。栗原大会実行委員長が開会を宣言し、鬼海大会会長、金井全国高P連専務理事が挨拶。引き続き表彰が行われ、受賞者を代表して関根前会長が謝辞を述べました。来賓を代表して吉村美栄子山形県知事、市川昭男山形市長から祝辞を頂戴しました。



研究協議は中山英行酒田光陵高校長が司会、佐藤俊一山形県生涯学習振興室長、井上利也鶴岡中央高校長が助言者を務めました。秋田県立養護学校天王みどり学園の菅原瑞穂会長、青森県立八戸水産高校の武内慶雄会長、岩手県立久慈高校の外谷隆司会長、宮城県仙台第三高校の尾地浩会長、福島県立坂下高校の磯目泰彦会長、山形県立米沢工業高校の長岡正一会長がそれぞれ自校の現

第62回東北地区高等学校PTA連合会山形大会は7月11日（木）、12日（金）の両日、山形市で開催されました。

初日の11日は、大会運営会議と研究協議委員会の後、パレスグランデールで意見交換会を催しました。寒河江高校農業校舎の生徒が丹精したサクランボが参加者を出迎え、やまがた舞子の優雅な踊りと山形の食材を堪能しながら懇親を深めました。2日目の本大会は12

最後は、山形中央高校吹奏楽部が「高校生による発表」で、華麗な演奏を披露し、その後栗原大会実行委員長の閉会宣言で全日程を終了しました。国宝「縄文の女神」、「きてけるくん」、「つや姫レディ」が歓迎に役買い、大会を盛り上げてくれました。



関東地区 埼玉大会

未来を彩れ 人の輪で 子どもたちのために Do Your Best



茂洋一氏が新たな地区会長に就任されました。

大会初日は、大宮ソニックの大・小ホールに於いて全体会が行われました。

開会式に先立つ歓迎アトラクションでは、県立熊谷高等学校PTAのコーラスと県立川口高等学校書道部の書道パフォーマンスが披露されました。両校ともその質の高さで高い評価をいただきました。

第59回関東地区高P連大会埼玉大会は、去る7月3日(水)・4日(木)の2日間にわたって、さいたま市の大宮ソニックシテイを舞台として、関東6県及び山梨県から約2,700名の参加を得て盛大に開催されました。大会前日の2日には関東地区高P連総会を開催し、各議案が承認された後、群馬県高P連の丸

開会式では、熊谷哲郎大会実行委員長と全国高P連の三輪一朝副会長の挨拶に続き、関東地区高P連活動で功労のあつた個人・団体に表彰状と感謝状が贈呈されました。その後、埼玉県副知事の祝辞をはじめとし5名のご来賓から祝辞をいただきました。続いて5つの提言を盛り

込んだ大会宣言文を採択し開会式を閉会しました。記念講演では脳科学者の茂木健一郎氏が講師に迎え、「子どもたちの未来を豊にする親の知恵」と題して講演いただきました。学生時代の友人を引き合いに出してのユーモア溢れるエネルギーッシュな語り口が印象的でした。



大会2日目は、大宮ソニック内の施設を使い、5つの分科会が行われました。特別分科会では、「防災教育とPTA」をテーマにし、人の輪で、自然災害から「命」を守る教育を進めようを合言葉に講演とシンポジウムが行われました。

北信越地区 新潟大会

たくましく生きる力を育むために、今、私たちができること

新潟大会は7月12日(金)・13日(土)の2日間にわたって、新潟市の新潟県民会館で開催されました。当日は、梅雨時の曇り空のもと、北信越5県から約1,320名が参加しました。

事をはじめとする来賓の方々から祝辞をいただきました。また各県でPTA活動に功績のあつた32名に対して表彰が行われました。

歓迎アトラクションでは県立新潟中央高校の弦楽・管弦楽部による演奏が2曲披露され、参加者から大変喜んでいただきました。

開会式で坂井会長は「この大会の中で、Pの役割は何か、Pとして何ができるかを考えてもらいたい」と挨拶し、つづいて全国高P連の三浦副会長の挨拶、新潟県副知

分科会と同じ新潟県民会館内の4会場に分かれて、各県から計20本の実践事例の発表が行われ、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

夕刻から行われた教育懇談会では950名を超える参加者があり、フロア一杯に溢れた円卓を囲んで懇親を深めました。



2日目の記念講演では、新潟県佐渡市出身の



金工作家で東京藝術大学学長の宮田亮平先生から「夢を探そう」自作を通して」と題して、自ら夢を実現してこられた体験やエピソードなど、大変楽しく、示唆に富んだお話しをしていただきました。

その後、閉会式に先だって総務省から「スマートフォンについて」の説明がありました。閉会式では大会宣言の採択、次期開催県の長野県高P連会長から挨拶があり、最後に坂井大会実行委員長の閉会挨拶で全日程を終了しました。

東京地区 東京大会

「夢から志へ」くたくましく生きるチカラを育むために、今、私たちができること

第25回東京地区高等学校PTA連合会大会は、7月20日に練馬区立練馬文化センターにて開催されました。

大会は午後1時に開会され、納見敏明都高P連会長の挨拶に続き、椎野正敬全国高P連副会長の挨拶の後、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課主任指導主事の鶴飼敦之様にご祝辞をいただきました。



本大会では、昨年より子どもたちも参加できる大会を目指し、高校生の活動発表の場を設けました。各校のご理解、PTA

のご協力もあり、舞台では7校が発表し、ギャラリーでは9校が展示を行いました。

舞台では、普段発表の機会が少ない部活を募ったところ、フェンシング・ジャグリング・少林寺拳法・薙刀・合唱・三宅島緑化プロジェクトの参加があり、高校生のひたむきな姿に胸が熱くなりました。

また、ギャラリーでは、**絵画・写真・中国切絵・漫画・茶碗・華道**が展示され、子どもたちの個性が活かされた力作揃いでした。

次に、山口大会の「家庭教育とPTA」の分科会で発表する西部北地区が、「子供のやる気を引き出す魔法の質問」について発表を行いました。続く基調講演には、講師に家庭教育アドバイザーの太田喜子氏をお招きしました。太田



太田喜子先生

先生は、高校生の実演や西部北地区の発表を受けて『感動しました。好きなことは伸びる。結果だけで判断しないで経過を見てほめてあげることが大事』とのお話から始められ、ご自身の子育てやカウンセリングの体験を交えて、思春期の子どものかわり方について温かい口調で講演されました。

東海地区 静岡大会

「絆から志へ」

東海地区高等学校PTA連合会「静岡大会」が6月21日（金）、静岡市の静岡市民文化会館大ホールにおいて「絆から志へ」を大会テーマに東海4県から会員1,845人が参加し、盛大に開催されました。

開会式では、鈴木敏彦東海高P連会長及び工藤重信全国高P連副会長の挨拶の後、安倍徹静岡県教育長から祝辞をいただきました。



次に静岡県舞台芸術センター芸術総監督、宮城聰氏により「演劇と青春」という演題で講演が行われました。講演において宮城氏

は、「インターネットや携帯電話、スマートフォンなどの普及により急速にIT化する現代社会の中で、今の若者たちは直接対面したコミュニケーションができない、あるいは苦手である。また、他と異なることや失敗することを恐れ過ぎている。」と若者たちを心配するとともに、演劇は個性の異なる者が集まり初めて劇になると個性の違いの大切さを話されました。

また、年間約15,000人の中高生が演劇を鑑賞していますが、演劇の持つ効力を発揮し劇場に様々な個性を持つ生徒たちの居場所を見付けてほしいと話されました。研究協議では静岡県立浜松西高等学校・中部部保護者教職員の会の大山稔顧問により「キャリア教育とPTA活動」をテーマに発表が行われました。



また、岐阜県立大垣工業高等学校育友会の坂口智之副会長により「保護者からのメッセージ」をテーマに発表が行われました。発表では、日常、面と向かって伝えるにくいことをメッセージに託して交換する取組が紹介されました。メッセージの交換により、心の通う親子の絆や学校との信頼関係が一層深まったことが報告されました。

近畿地区 京都大会

「深めよう親子の絆、広げよう地域の絆、共に開こう明日へのとびら」

第39回近畿地区高等学校PTA連合会大会京都大会は、6月28日、29日の両日、京都市で開催されました。

1日目は、ホテルルビノ京都堀川で近畿地区総会、専門委員会、分科会打合せ会を行いました。

夕刻から、レセプションを開催し、八幡支援学校PTAの皆さんのフラダンスに参加者が加わるなど、100名以上の参加者が交流を深めました。

2日目は、国立京都国際会館に3,000名を超える参加者が集い、大

会を開催しました。

アトラクションとして、西乙訓高校吹奏楽部・京都堀川音楽高校金管アンサンブル部・京都市立芸術大学音楽学部金管五重奏団による演奏が行われました。

開会式では、主催者挨拶、来賓祝辞、広報紙コンクール表彰式、感謝状贈呈式、大会宣言採択等が厳粛に行われました。

特別分科会は、「キャリア教育について」のテーマで、佛教大学教育学部長の原清治先生の基調講演と、講演を受けてのパネルディスカッションが行われました。

ユーモアを交えながら語られました。参加者は、時にうなずき、感動を覚えながら聞き入っていました。

午後は、四つの会場で分科会を開催し、多くの参加者がありました。

第1分科会では、和歌山県立向陽高校、奈良県立大和広陵高校、滋賀県立大津高校から、第2分科会では、大阪府立今宮高校、神戸市立科学技術高校、京都府立与謝の海支援学校から、第3分科会では、兵庫県立伊川谷高校、大阪市立扇町総合高校、京都市立伏見工業高校から実践報告があり、参加者との意見交換を含めて熱心な研究協議を行いました。



記念行事は、「鉄人」

衣笠祥雄氏の、「野球に教えられ、学んだ事」と題した講演が行われました。自らの少年時代から球界を代表する選手になるまでを振り返りながら、夢を目標にすること、目標を達成するためのたゆまぬ努力の大切さを、

中四国地区 島根大会

「縁を結び絆を育む」～PTAから広がる輪 だんだん！～



える」～聴く力の種」という演題で講演が行われました。実社会におけるコミュニケーションの基礎は家族から築かれるというお話をワークをとり入れながら参加者全員で考えました。

昼食後は、地元高校生による発表があり島根県立出雲農林高校太鼓部の「七兵衛太鼓」、島根県立大社高校ダンス同好会の「宇宙」、島根県立浜田商業高校郷土芸能部の「石見神楽『大蛇』」に、参加者はその迫力に魅了されました。

続く研究協議では、高知県高P連・西澤和史副会長、島根県高P連・澁谷恵子副会長の両氏を議長に、3つの実践・研究発表が行われました。第1テーマでは、「普通

PTAと地域産業担い手育成事業を通して」と題して、愛媛県立松山工業高校PTA・高梨聖丈会長、地元からは「地域おこしとPTAと高校魅力化が結ぶ人との縁」と題して、島根県立隠岐島前高校PTA・沼田洋一前会長から、それぞれ地域の特性に応じた実践発表があり、その後活発な質疑応答が行われました。

閉会式では、次期開催県の高知県高P連・生永慎一会長から、高知県の紹介と大会参加を待ち望む挨拶がありました。

今大会では、ロビーにおいて地元専門高校によるオリジナル商品を販売するブースを設け、参加者と高校生の縁を結ぶこともできました。

第55回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会は7月12日(金)「島根県民会館」において、中四国各県より1,680余名の会員・役員が一堂に会し盛大に開催されました。

開会式では、中四国高P連・松尾強会長、全国高P連・相川順子会長、島根県教育委員会・今井康雄教育長の挨拶、続いて溝口善兵衛島根県知事、松浦正敬松江市長の祝辞がありました。

開会式後、島根大学教育学部講師の香川奈緒美氏を講師に、「家庭内のコミュニケーションを考



九州地区 みやざき大会 広げよう人づくりの輪 チャレンジしよう自分づくり



平成25年度九州地区高等学校PTA連合会大会があくがれて、来てみらんねみやざき大会は、「広げよう人づくりの輪チャレンジしよう自分づくり」をテーマに6月20日(木)・21日(金)の2日間にわたって、台風4号の影響が心配される中、雄大な太平洋と広大な黒松林を臨むシーガイアコンベンションセンターをメイン会場にして2,820名余りの会員が参加して開催されました。

20日は、理事会・総会で全ての議案が承認され、大会運営打ち合わせでは大会運営についての確認が行われました。21日午前中には分科会が開催され、第1分科会「青少年の健全育成とPTA活動」第2分科会「進路指導とPTA活動」では各県から実践発表があり、第3分科会「自分づくりとPTA活動」においては、宮崎県教育委員会指導主事の基調講演を受けてパネルディスカッションが行われました。各分科会とも熱心な質疑応答が行われ、各助言者からも貴重な助言がありました。午後からの歓迎アトラクションでは、宮崎商業高校の吹奏楽部と宮崎大宮高校のダンス部が若さ溢れる素晴らしい演奏・演舞を披露してくれました。開会式では、久保九高P連会長の挨拶に続き、相川全国高P連会長、河野宮崎県知事、戸敷宮崎市長の心温まる来賓あいさつをいただきました。そして記念講演



では、元フジテレビアナウンサーで貴乃花部屋女将の花田景子さんが「女将奮闘記」という演題で、元横綱貴乃花関の現役時代のことや、部屋の弟子たちへの食事の世話や励まし方等相撲界ならではの貴重な出来事をユーモアを交えてお話をされました。日々の子育てに真正面から向き合っている参加者にとって、感動と感銘を与える講演となりました。最後に閉会式では、次年度開催県の鹿児島県連会長から挨拶があり、無事大会を終えることができました。

シリーズ視点

世界に羽ばたけ！

輝く高校生！

比嘉洋さん・恵子さん
(比嘉一貴君の両親)
インタビュー

「ゴルフを始めたきっかけは

洋さん 小学校3年生のとき、私が友人とのゴルフラウンドに本人を誘うと、ついてきた。最初は見ていただけであったが、本人からプレイしたいと言ってきた。初めてゴルフクラブを握って、2日からプレーしたので、2日かけ。最初のラウンドのスコアは98であった。始めた当初は、ハンドボールとゴルフの二足のワラジであったが、中



比嘉家族写真(左から)洋さん、一貴君、恵子さん、祐貴君(弟)

学に入學するとゴルフ一本に絞った。

「家庭での様子は

恵子さん いつもゴルフの練習を終えて帰宅するので帰りが遅く、食事をしています。やるべきことをやってゴルフの練習、というのが比嘉家の方針。一貴はゴルフ練習のために宿題を終わらせてゴルフの練習に向かう、というのが常でした。――本部高校への進学について

洋さん 国体少年の部で、共に戦った仲の良い先輩に誘われて、本部高校への進学を決意したよう

だ。親としては、本人の希望を最優先に考えていた。入学した当初は、アメリカへの留学も考えていたが、本部高校のメ

高等学校ゴルフ選手権、通称『緑の甲子園』で優勝したいという気持ちから、アメリカ留学を断念した。

「プロを目指すことについて

洋さん 本人の希望なので全力でバックアップしたい。体が小さいためどこまでいけるか分からないが、本人を信じている。アマチュアのとときにプロのトーナメントで実績を出して、プロになってもりたい。

「目指してほしいゴルフアー像

洋さん 世界でも通用する十分な技術力、精神力を身につけてほしい。

「親から見た比嘉一貴の強みは

洋さん 慌てずに落ち着いてプレーができること。周囲を気にすることなく自分のプレーに集中することができる。練習量に裏付けされた動じないプレースタイルが一番の強みだと思う。



琉球新報社提供

高校生ゴルファー

比嘉一貴君

スポーツ、芸術、学業さまざまな分野で世界に羽ばたく高校生がいま。輝く高校生。その活躍と保護者の思いを紹介するコーナーです。
(調査広報委員会)

第3

回は、3月の全国高校ゴルフ選手権春季大会で優勝し、社会人と大学生も出場する昨年の日本アマチュアゴルフ選手権で高校2年生で準優勝を果たし、ゴルフ界の注目を集める沖縄県立本部(もとぶ)高校3年の比嘉一貴君(18)と、ご両親の比嘉洋さん(51)、恵子さん(41)です。

将来はプロの道へ

第97

回は、平成24年7月3日から7日までの5日間にわたり、奈良県で行われた。出場選手138名で予選ラウンドを戦い、上位32人のマッチプレーで優勝を決する。決勝に進出し

た比嘉一貴君は、ナショナルチームのメンバーでもある実力者小袋選手と対戦し惜しくも2Uで敗れた。社会人、大学生を含めた同大会での準優勝は全国の注目を集める。平成25年3月27日に開幕した全国高校ゴルフ選

手権春季大会においては、3日間とも首位を明け渡すことなく二位に7打差をつけての完全優勝であった。

今年度はこれまで以上に練習に励み、昨年度を上回る成績を上げ、将来はプロの道に進み活躍したいと考えている

Profile

比嘉一貴 (ひが・かずき)

沖縄県うるま市出身。小学校3年生から父親の指導の下ゴルフを始め、中学校3年生では国体少年の部のメンバーに選ばれている。高校は、親元を離れゴルフの強豪校である本部高校へ進学した。高校2年生のとき日本アマチュア選手権大会で準優勝、全国高校選手権春季大会で優勝し、全国の注目を集める。ゴルフと学業で優秀な成績を収めた高校生。

大学生を表彰するJGAアカデミック・ゴルフ・アワード(日本ゴルフ協会主催)の高校生の中で最優秀賞に選ばれた。(昨年度の比嘉真美子に次いで本部高校から2年連続選出される) 3年生になった今年度、トヨタジュニアワールドカップにおいて、日本人最上位の4位に入賞し、団体4位の原動力となる。

平成25年度 一般社団法人全国高等学校PTA連合会役員・委員名簿

Main table listing board members and officers with columns for position, name, region, and prefecture.

健全育成委員会

Table for the Health and Welfare Committee listing members by region and name.

進路対策委員会

Table for the Career Guidance Committee listing members by region and name.

賠償責任補償制度運営委員会

Table for the Compensation System Management Committee listing members by region and name.

調査広報委員会

Table for the Investigation and Publicity Committee listing members by region and name.

研修委員会

Table for the Training Committee listing members by region and name.

Special section featuring a quote from Chairman Shikawa Junako about the summer season and the importance of PTA activities.